

令和3年度 第35回全日本大学女子野球選手権大会感染予防対策ガイドライン

令和3年7月10日

全日本大学女子野球選手権大会魚津市実行委員会

1. はじめに

新型コロナウイルス感染予防対策として示された「(公財)全日本軟式野球連盟感染予防対策ガイドライン」及び「(公財)日本スポーツ協会国民体育大会開催における新型コロナウイルス感染防止に関する基本方針」を準拠して、感染予防対策の徹底を図りながら大学女子軟式野球活動を継続し、かつ、より安全に大会を実施するため、「**第35回全日本大学女子野球選手権大会感染予防対策ガイドライン**」を参加チーム含む全ての大会関係者のご理解とご協力をお願いいたします。

なお、大会会期中(前日練習日から当該大会終了まで)において、「第35回全日本大学女子野球選手権大会感染予防対策ガイドライン」を遵守しない参加チームを含む大会関係者が発生した場合には、参加の取消し(途中退場を含む)や大会を中止する必要があることを申し添えます。

全日本大学女子野球選手権大会における共通予防対策について

全日本大学女子野球選手権大会の開催にあたり、すべての参加者個々人が、感染予防対策を確実に実行することが感染拡大防止の基本である。以下の事項を感染予防対策の基本とし、主催者(運営者)は様々な場面において予防対策の確実な実施に向け準備・運営にあたる。

<大会における共通予防対策>

- 手指衛生の励行
- 競技及びウォームアップ実施時以外、常時マスクの着用
- ソーシャルディスタンスの確保
- 「3密」(密閉空間・密集場所・密接場面)の回避(できる限り「ゼロ密」を目指す)
- 禁煙の推奨
- 毎日の健康と行動の記録(健康チェックシートの記入)の事前提出・必要に応じた事後報告
- 体調不良の場合(例:発熱、咳、喉の痛み、倦怠感、味覚嗅覚の異常など)の参加自粛
- 大声での会話・応援の自粛
- 接触確認アプリ(COCoA)の利用推奨
- 大会期間中の会食の自粛・食事時の会話の自粛
- 選手、関係者、観客などのゾーニング確保・エリアコントロールの徹底
- 諸室、共用物品の消毒の徹底

2. 選手権大会

①健康チェックシート等の提出について

- ア) 参加チームは、別紙「健康チェックシート」に各日ごとに大会会場へ入場する者全員の健康状態及び検温結果等を記録し、大会会場到着時に大会本部に提出しなければならない。
※ベンチ入りメンバー：監督1名、部長1名、コーチ2名、マネージャー1名、選手25名（最大30名）
- イ) 大会本部が「健康チェックシート」の記載内容確認のうえ許可を出すまではアップ会場（第1試合においては大会会場）に入ることは認めない。
- ウ) 大会会場到着時に「健康チェックシート」を提出出来ないチームは試合を行うことは出来ない。
- エ) 大会本部(大会役員、審判員、記録員、補助役員)は、検温を実施のうえ大会会場に来場し、大会会場到着と同時に「健康チェックシート」への記入とともに健康状態を本部責任者へ報告しなければならない。
- オ) 発熱、咳、倦怠感等の風邪症状および味覚嗅覚を感じない者の参加を認めない。
また、参加者の同居人が上記に該当する場合も参加を認めない。
- カ) 14日以内に感染者との接触や濃厚接触者と特定された者の参加を認めない。
また、過去14日以内に政府から入国制限、入国後の観察期間を必要とされている国、地域等への渡航又は当該在住者との濃厚接触がある場合は参加を認めない。
- キ) 「健康チェックシート」は、大会参加者に感染が判明した場合には関係機関に公表する場合があることについて承諾すること。
- ク) 大会参加時は、現地入り14日前の健康状態、行動内容を「体調管理チェックシート」に記録し、大会本部からの求めがあった場合は、速やかにその内容を提出する。なお、記録された内容により、大会本部から事前に大会への出場・来場を断る場合がある。
また、提示または提出を求めた資料の記載内容について関係機関（保健所等）へ情報提供する場合があることについて承諾すること。

②マスクの着用等について

- ア) 参加チーム(当日参加者全員)及び大会本部(大会役員、審判員、記録員、補助役員)は、大会参加中のマスク着用を義務付ける。
大会参加中とは、大会会場到着から大会会場出発までを指す。
- イ) 参加チームのうち、ベンチ入りメンバーに限り熱中症に対する配慮から、アップ会場及び試合会場で活動する間はマスク着用の義務付けは行わない。
但し、ベンチ内において「声出し」する場合は、可能な限りマスクを着用するものとする。

- ウ) 大会本部のうち、当該試合に従事する審判員及び放送員に限り、試合中のマスク着用の義務付けは行わない。
- エ) 参加チーム及び大会本部関係者は、熱中症に対する配慮から、人との距離を2 m以上確保出来る状況において一時的にマスクを外すことを認める。

③大会会場の入場等について

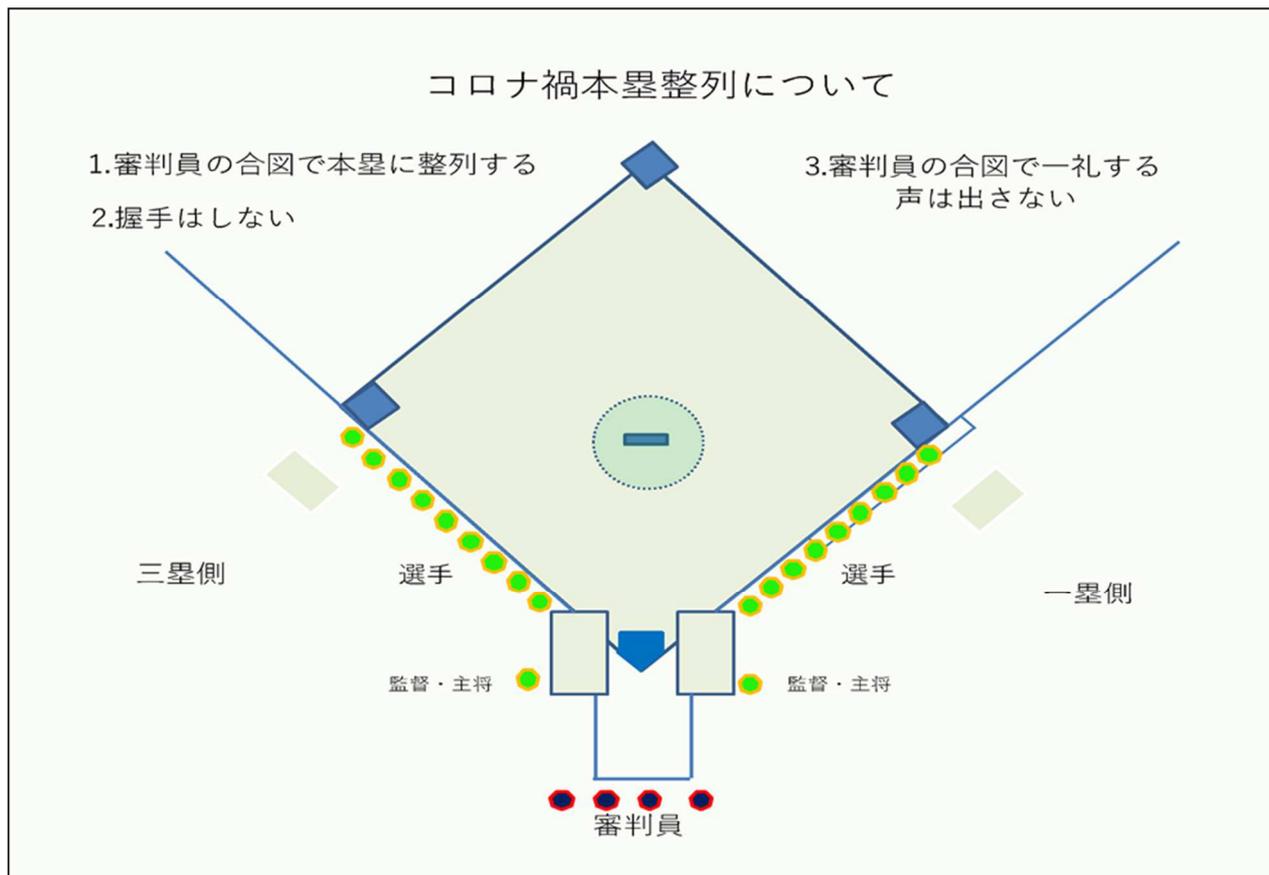
- ア) 大会会場には、大会本部及び参加チームのうち「健康チェックシート」に記載された人数以外の入場は一切認めない。
- イ) 実行委員会が応援者等の観戦が可能と判断した場合に限り「有観客試合」とすることがある。
「有観客試合」とする場合は、大会の監督・主将会議において周知するものとする。
観戦者には、検温及び消毒の実施、健康チェックシートへの記入を求めることとし、協力を得られない場合には入場を認めない。
また、観戦の際には、観客席が「密」にならないように一定の距離を保って観戦するようアナウンスなどにより注意喚起を行うとともに、応援方法は拍手のみ（声援や鳴り物は認めない）とし、協力を得られない場合には退場を求めることが出来るものとする。
- ウ) 大会会場には、大会本部役員の誘導に従いチームごとに選手入場口から入退場するものとし、大会本部が認める場合を除き、それ以外からの入退場は認めない。
- エ) 大会本部及び参加チーム（入場を認められた者）が大会会場に入退場する際には、選手入場口もしくは各ベンチに備え付けてある消毒液での消毒実施を義務付ける。

④大会及び試合運営について

- ア) 試合ごとに「開場時刻」「開始時刻」及び「退場時刻」を設定して試合運営を行う。
但し、天候不良により試合消化が困難と予想される場合は大会本部の指示に従うものとする。
- イ) 試合終了後は、両チームでグラウンド整備及びベンチ内清掃を義務付ける。
但し、ベンチ内の消毒作業は大会本部が行うものとする。
- ウ) 大会会場からの「退場」は、大会本部の指示によりチームごとに行うものとし、チームあるいは個人の判断による退場は認めない。
- エ) 第2試合目以降のチームは、前の試合チームが退場し、ベンチ内の消毒が終了する「開場時刻」までは入場することは出来ない。
- オ) アップ会場における練習や試合前及び試合中において、全選手が密集する円陣、声出し及び選手同士が密接するハイタッチなどは認めない。

- カ) 攻守は、従来通りメンバー表交換時に両チームの主将によるジャンケンで決定することとするが、ジャンケン前の握手は行わない。
- キ) 試合前及び試合後の整列及び挨拶は、以下に図示する「コロナ禍本塁整列について」に従い行うものとする。
- ク) ベンチ及びスタンドからの鳴り物による応援やメガホンなどの拡声機類による声援は認めない。
- ケ) 大会開催14日前から、参加チーム関係者（選手を含む）に感染者が発生した場合は当該チームの参加は認めない。
なお、この場合対戦相手は「不戦勝」とする。
- コ) 大会期間中において参加チーム関係者に感染者が発生した場合は大会を中止する。大会本部関係者において感染者が発生した場合も同様の対応とする。
この場合、対象となる参加チームは正確かつ詳細な情報提供しなくてはならない。
また、大会本部は、対戦相手チームを含む参加者全員の安全確保を最優先に考慮し、十分に説明責任を果たせるよう適切に対応しなければならない。
- サ) 実行委員会は、感染拡大防止を含む安全かつ安心な大会運営を図るため、以下に該当する場合は出場辞退勧告あるいは参加資格を取消すことができるものとする。
- ・ 実行委員会は、参加チームが十分な回復期間が確保されない場合は、原則として出場禁止または参加資格を取り消すことができる。
 - ・ 実行委員会は、大会までに陽性者の回復、濃厚接触者の隔離期間解除がなされない場合は、出場禁止または参加資格を取り消すことができる。
 - ・ 実行委員会は、参加チームに感染疑いが生じて安全性の判明が間に合わない場合は、出場辞退を勧告し、または参加資格を取り消すことができる。
 - ・ 実行委員会は、大会中に参加チーム(対戦相手チームの場合もある)に濃厚接触者や感染疑いが生じた場合は、出場辞退、または参加資格を取り消すことができる。
 - ・ 実行委員会は、大会中に参加チームに37.5度以上の発熱者および別に記載の新型コロナウイルス感染症を考慮する症状を有する者が生じた場合は、出場辞退を勧告し、または参加資格を取り消すことができる。
 - ・ 実行委員会は、対戦済みの相手（敗退したチーム）に感染疑いが発覚した場合、勝利して次戦がある当該チームに対して棄権を勧告できる。
- シ) 感染者が発生した場合あるいは過去に発生した者が在籍するチーム等に対して誹謗中傷したり非難したりすることは厳に慎むとともに、上記以外に感染拡大に繋がる可能性のある事態が発生した場合は実行委員会の指示に従うものとする。

・ 図示「コロナ禍本塁整列について」



⑤. その他

ア) 各自で水筒などを準備し、十分な水分補給に心掛けてください。なお、試合前の練習においては休息や水分補給の時間を積極的に設けるよう努めること。

イ) チームで準備する飲物やコップ等については、個数を増やすなど共有(まわし飲み)を避けるよう工夫すること。

ウ) 試合中において、攻撃時間が長くなる場合には球審の判断で給水時間を設ける場合があるが、チームはその指示に従うこと。

3. 大会運営上の重点対策【カテゴリー別】再掲あり

(1) 選手・監督（コーチ、チーム関係者含む）

1) 全般／大会開催地まで

- ・ 毎日の健康（起床直後の検温等）と行動の記録を習慣とする。また、大会参加時は現地入り14日前の健康状態、行動内容を体調管理チェックシートに記録し、大会本部からの求めがあった場合は、速やかにその内容を提出する。なお、記録された内容により、大会本部から事前に大会への出場・来場を断る場合がある。
- ・ 監督（指導者）は、選手の健康状態、行動内容を常に把握、管理する。

- ・ 同居家族や身近な知人に感染が疑われる者がいないか常に確認する。
- ・ 大会地派遣前に体調不良（例：発熱、咳、喉の痛み、倦怠感、味覚嗅覚の異常など）が出現した場合、平素の活動を中止し、かかりつけ医等の最寄りの医療機関又は受診・相談センターに電話相談の上、必要に応じてPCR 検査等を受ける。
- ・ 感染者への対応
大会開催日の2週間前の時点もしくはそれ以降に、PCR 検査で陽性反応があった場合、感染者及び濃厚接触者は参加を辞退する、または、派遣を取り消す。
- ・ 濃厚接触者への対応
保健所から濃厚接触者と認められた場合、14 日間にわたり健康状態を観察する期間を経過し、症状が出ていない選手の出場を認めても構わない。
- ・ 感染疑い者（体調不良〔例：発熱、咳、喉の痛み、倦怠感、味覚嗅覚異常など〕の症状があり、PCR 検査で「陰性」であった者、または医療機関を受診しなかった者）への対応、現地入りの2週間前の時点もしくはそれ以降に感染疑い症状が発症していた場合、インフルエンザ等の新型コロナウイルス以外の感染症のリスクもある為、原則当該選手は参加を辞退する。または、派遣を取り消す。
- ・ 会場地に向けて自宅（または準ずる拠点地）を出発する前に検温を行う。
- ・ 喫煙は重症化のリスク因子と考えられているため、禁煙を強く推奨する。

2) 大会開催地入りから大会期間中

① 移動

- ・ 宿舍出発前に検温を行い、健康状態を記録する。
- ・ チーム専用の移動手段を手配することが望ましい。
- ・ 公共交通機関を利用する場合は、感染予防の観点から、移動中のマスクの着用、手指衛生の徹底、必要に応じた換気の実施、必要以上の会話や飲食は避け、さらに可能な限り座席をまとまって搭乗、乗車し、一般客との接触を避ける。

② 宿舍

- ・ チェックイン手続きについては、代表者が一括で行う。
- ・ 部屋割りは、一人部屋が望ましいが、困難な場合は、極力少人数の部屋割りとなるよう配慮する。複数人での利用の場合、室内では常時マスクを着用することが望ましい。
- ・ 部屋の換気を良くする。推奨されている室内湿度である50～60%に保つよう心掛ける。
- ・ 食事の時は、選手団が一同に集まるのではなく、時間差をつけて、距離（できるだけ2m、最低1m）を空けられるようにし、必要以上の会話は控える。やむを得ず会話をする場合は、

食事中であってもマスクを着用する。

- ・ 食事の際は、宿舎からの指示等に従い、感染のリスクを低減するよう努める。
- ・ 宿舎共用部（例：エントランスなど）では、混雑が起これないように譲り合って使用するとともに、人数制限など宿舎からの指示等に従う。
- ・ チームのミーティングなどは、ビデオ会議（オンラインミーティング）を活用し、選手らの接触を、極力避ける。対面で実施する場合は、部屋の広さ（参加者間ができるだけ2m、最低1m）や換気に留意し、「3密」の状態とならないようにする。
- ・ 選手の治療やコンディショニングに際しては、多数が一度に集まらないように工夫し、部屋の換気を繰り返す。マスク・手袋・手指消毒など標準予防策（病院や介護施設で行われている感染予防策）をとった上で対応する。また、環境や使用する器具等の消毒を行う。
- ・ 体調不良（例：発熱、咳、喉の痛み、倦怠感、味覚嗅覚の異常など）を訴える者が出た場合は、宿舎に速やかに連絡し、体調不良者を隔離する。また、大会本部にも速やかに連絡し、その後の相談・受診・検査等の経過について報告する。
- ・ 風呂を利用する際は、3密を防ぎ、個々人の利用時間を短くし、速やかに退室するように心がける。

③ 大会会場

- ・ 大会会場では、設置された消毒液の使用やこまめな手洗いなどによる手指衛生の徹底を図る。
- ・ 大会会場内での移動や待機時は、マスクを着用する。
- ・ 大会会場入場時、検温を行う。
- ・ エントリー手続きについては、極力、代表者が一括で行う。
- ・ 大会会場における導線やエリアコントロール等のゾーニングなどについては大会本部の指示に従う。
- ・ 体調管理チェックシートを提出する。
- ・ ロッカー（更衣）室や選手参集・待機所などでは、大会本部の指示等に従い、「3密」を回避する行動をとる。また、不要な会話・接触は控える。
- ・ ウォームアップを行う場合は、大会本部の指示等に従い、「3密」を回避する行動をとる。
- ・ 新型コロナウイルス対策とともに、アンチ・ドーピングの観点から、水分補給のためのペットボトル等の共用はしない。また、ペットボトル等は所有者が分かるよう記名や目印を記すようにし、他者から触れられないようにする。
- ・ 観戦する場合は、大会本部の指示等に従い、「3密」を回避する行動をとる。また、声援や掛け声は、極力、避けるよう努める。

- ・ 報道関係からの取材を受ける場合は、大会本部の指示等により予め指定された場所でのみ対応する。また、対応時は、必ずマスクを着用し、相手との距離（できるだけ2m、最低1m）を保つ。なお、大会本部の指示等に従わない者（マスク未着用の者からの取材、所定の場所以外での取材等）からの求めには応じない。
- ・ シャワールームの利用は原則禁止とし、自宅や宿舎等に戻ってから利用する。

④ 大会期間中

- ・ 素手でのハイタッチや握手等は控える。
- ・ 唾・痰を吐く、うがい等は禁止。
- ・ 手を舐める行為を行わない。
- ・ 円陣を行う際の声出しは、可能な限り選手同士の間隔を取り、最短時間で済ませる。
- ・ 試合中の選手間のコミュニケーションのための声掛け、発声については妨げないが、プレー中断時などは、相手との距離や飛沫を考慮し、一程度の距離を保つことや、向き合わないなどの工夫をする。
- ・ 手指衛生に努めた上、共用物品の使用は可能な限り控え、共用物品については可能な限り消毒を行う。
- ・ 監督（指導者）が指示などを行う際は、マスクを着用するとともに、選手との距離（できるだけ2m、最低1m）を意識し行う。なお、指示などに際し支障が生じる場合は、マスクを外してよいが、競技上必要最低限に留めるよう努める。
- ・ 新型コロナウイルス対策とともに、アンチ・ドーピングの観点から、水分補給のためのペットボトル等の共用はしない。また、ペットボトル等は所有者が分かるよう記名や目印を記すようにし、他者から触れられないようにする。
- ・ 給水を補助するような場合は、手指消毒をし、マスクを着用する。
- ・ 試合終了後、チームとして観客席等に挨拶を行う場合は、選手らの距離が保たれるよう留意する。握手やハイタッチ、抱擁は行わない。

3) 大会期間終了後

- ・ 出発前に体調不良（例：発熱、咳、喉の痛み、倦怠感、味覚嗅覚の異常など）がないか確認する。
- ・ 宿舎のチェックアウト手続きについては、代表者が一括で行う。
- ・ 移動に際しての留意事項については、「2)会場地入りから大会期間中」同様の対応を行う。
- ・ 帰宅（または準ずる拠点到着）時に検温を行う。
- ・ 健康（起床直後の検温等）と行動の記録を怠らず、万が一体調不良（例：発熱、咳、喉の痛

み、倦怠感、味覚嗅覚の異常など) となった場合や、新型コロナウイルス感染者となった場合は、医療機関、保健所等の指示に従うと

(2) 大会運営者(大会役員、審判員、記録員、救護員、補助役員他)

1) 全般

- ・ 毎日の健康(起床直後の検温等)と行動の記録を習慣とする。大会参加時は、現地入り14日前の健康状態、行動内容を体調管理チェックシートに記録し、大会本部からの求めがあった場合は、速やかにその内容を提出する。なお、記録された内容により、大会本部から事前に大会への来場を断る場合がある。
- ・ 同居家族や身近な知人に感染が疑われる者がいないか確認する。
- ・ 新型コロナウイルス感染症が重症化しやすい基礎疾患(糖尿病、心不全、呼吸器疾患、高血圧、透析を受けている者、免疫抑制剤や抗がん剤等を用いている者等)を持っている者が運営に従事する場合は、そのリスクを十分考慮し、運営にあたる。但し、競技運営に必要な人員が十分に確保される場合は、可能な限り運営に係ることを回避する。
- ・ 感染者への対応
大会開催日の2週間前の時点もしくはそれ以降に、PCR 検査で陽性反応があった場合は、競技運営への従事を辞退する。
- ・ 濃厚接触者への対応
保健所から濃厚接触者と認められた場合、14日間にわたり健康状態を観察する期間を経過し、症状が出ていない場合は大会運営に従事しても構わない。
- ・ 感染疑い者(体調不良〔例:発熱、咳、喉の痛み、倦怠感、味覚嗅覚の異常など〕の症状があり、PCR 検査で「陰性」であった者、または医療機関を受診しなかった者)への対応
大会開催日の2週間前の時点もしくはそれ以降に感染疑い症状が発症していた場合、インフルエンザ等の新型コロナウイルス以外の感染症のリスクもある為、原則、大会運営への従事を辞退する。
- ・ 大会地に向けて自宅(または準ずる拠点地)を出発する前に検温を行う。
- ・ 喫煙は重症化のリスク因子と考えられているため、禁煙を強く推奨する。

2) 開催地入りから大会期間中

① 移動

- ・ 自宅や宿舍出発前に検温を行い、健康状態を記録する。
- ・ 専用の移動手段を手配することが望ましい。
- ・ 公共交通機関を利用する場合は、感染予防の観点から、移動中のマスクの着用、手指衛生の

徹底、必要以上の会話や飲食は避ける。

② 宿舎

- ・ 部屋割りは、一人部屋が望ましいが、困難な場合は、極力少人数の部屋割りとなるよう配慮する。複数人での利用の場合、室内では常時マスクを着用することが望ましい。また、体調不良者（例：発熱、咳、喉の痛み、倦怠感、味覚嗅覚の異常など）の発生などにより、競技会運営が維持できない状況とならないよう、競技会責任者や担当者の分散配宿や必要以上の接触がないように努める。
- ・ 部屋の換気を良くする。推奨されている室内湿度である50～60%に保つよう心掛ける。
- ・ 食事の時は距離（できるだけ2m、最低1m）を空けられるようにし、必要以上の会話は控える。やむを得ず会話をする場合は、食事中であってもマスクを着用する。
- ・ 食事の際は、宿舎からの指示等に従い、感染のリスクを低減するよう努める。
- ・ 3密を防ぐため、喫煙所を設置しない。
- ・ 風呂を利用する際は、3密を防ぎ、個々人の利用時間を短くし、速やかに退室するように心がける。

③ 大会会場

- ・ 大会会場では、設置された消毒液の使用やこまめな手洗いなどによる手指衛生の徹底を図る。
- ・ 大会会場内では競技運営に支障が生じる場合を除き、マスクを着用する。
- ・ 大会会場入場時、検温を行う。
- ・ 体調管理チェックシートを提出する。
- ・ 「3密」空間や飛沫を減らすよう物理的・人的対策を講じる。

④ 試合中

- ・ 試合運営に支障が生じる場合を除き、マスクを着用する。
- ・ 手指衛生に努めた上、共用物品の使用は可能な限り控え、共用物品については可能な限り消毒を行う。
- ・ 出場選手の救急対応に備え、飛沫感染防止用のメガネ、ゴーグルや使い捨て手袋などを携帯する。
- ・ 給水を担当する場合は競技開始前に手指消毒をし、使い捨て手袋、フェイスシールド、マスクを着用する。
- ・ 選手招集・待機所では大声を出さないよう、拡声器などを用いる。使用した拡声器について

は消毒をする。

3) 大会期間終了後

- ・ 出発前に体調不良（例：発熱、咳、喉の痛み、倦怠感、味覚嗅覚の異常など）がないか確認する。
- ・ 移動に際しての留意事項については、「2)会場地入りから大会期間中」同様の対応を行う。
- ・ 帰宅（または準ずる拠点到着）時に検温を行う。
- ・ 健康（起床直後の検温等）と行動の記録を怠らず、万が一体調不良（例：発熱、咳、喉の痛み、倦怠感、味覚嗅覚の異常など）となった場合や、新型コロナウイルス感染者となった場合は、医療機関、保健所等の指示に従うとともに、大会本部に速やかに報告する。関係者は感染者のプライバシー保護に努める。

(3) 報道関係（それに準ずる者も含む）

- ・ 大会本部に申請を行い、承認を得た者のみとする。
- ・ 毎日の健康（起床直後の検温等）と行動の記録を習慣とする。また、大会運営時は、現地入り14 日前の健康状態、行動内容を体調管理チェックシートに記録し、大会本部からの求めがあった場合は、速やかにその内容を提出する。なお、記録された内容により、大会本部から事前に大会への来場を断る場合がある。
- ・ 大会会場では、設置された消毒液の使用やこまめな手洗いなどによる手指衛生の徹底を図る。
- ・ 大会会場入場時、検温を行う。
- ・ 体調管理チェックシートを提出する。
- ・ 大会会場内では常にマスクを着用する。
- ・ 会場地に向けて自宅（または準ずる拠点地）を出発する前に検温を行う。

(4) 観客

- ・ 大会本部は、試合及び開・閉会式や表彰式等の式典など、大会における観客の参加については、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策の観点から「無観客」での開催も含め検討する。
- ・ 大会本部は、有観客で実施する場合は、来場する観客に対し、選手権大会において講じられる新型コロナウイルス感染症対策に関する情報を事前に提供し、大会会場等での混乱を避けるよう努める。
- ・ 大会本部は観客に対して、手指消毒を徹底し、マスクを必ず常時着用させる。

- ・ 大会本部は観客に対して、随時感染拡大防止のためにアナウンスを行う。
- ・ 大会本部は予め、体調不良（例：発熱、咳、喉の痛み、倦怠感、味覚嗅覚の異常など）のある観客の来場を断ることを通知する。
- ・ 大会本部は観客の導線と選手の導線を分離し、ゾーニングを行う。
- ・ 観客人数を制限し、隣席の観客との距離（できるだけ2m、最低1m）を空ける。
- ・ 当日来場の場合は、大会会場入場時、検温を行う。その他、係員からの質問があった場合は、応答する。

例：「7日間以内の体調不良の有無」、「同居家族や身近な知人に感染が疑われる者の有無」

- ・ 大会本部から体調管理チェックシート等の記入（記録）
- ・ 提出の要請があった場合は協力する。なお、記入（記録）された内容により、大会本部から事前に大会への来場を断る場合がある。
- ・ 観覧場所に特に指定がない場合は、可能な限り座席位置や大会会場内での行動を記録しよう心掛ける。
- ・ 会場地に向け自宅（または準ずる拠点地）を出発する前に検温を行う。
- ・ 喫煙は重症化のリスク因子と考えられているため、禁煙を強く推奨する。
- ・ 大声での声援、掛け声、会話は行わない。
- ・ 同居家族や身近な知人に感染が疑われる者がいないか常に確認する。確認された場合は来場しない。

4. 式典（開・閉会式、表彰式等）

- ・ 選手らを一堂に会することによる感染拡大リスクを踏まえ、十分な対策が講じられない場合は中止する。
- ・ 実施する場合は、以下の点を考慮する。

- 当初予定時間から短縮が図られるようプログラムの見直しを行う。
（例：挨拶者を1名とする／入場行進や儀礼〔国旗、大会旗掲揚〕の簡略化）
- 参加者人数を制限し、参加者間の距離（できるだけ2m、最低1m）を保つ。
- 参加者は常にマスクを着用する（運営等に支障がある場合は除く）。
- 本方針の目的及び感染拡大リスクを踏まえ、選手・監督の参加の可否を検討する。
- 音源（CD など）を用いるか、中止する

5. 前夜祭、地域交流会（天神・上野方地区他）等

- ・ 感染症拡大防止の観点から、「実施しない」